

## オバマ政権時代の世界宣教

2009年1月25日 アシェル・イントレーター

バラク・オバマ氏の大統領就任式に伴い、世界は確実に政治的にも預言的にも新しい時代、新しい時期に入りました。これまで以上に私たちは世界共同体なのです。世界中のメディアは同じニュースを流しています。世界的な金融問題は世界中の市場に影響を及ぼしています。国連および国際外交はすべての国々に影響を及ぼしています。

神は私たちの考えとは異質な方法で確かに働かれます。昨年私はメディアのために祈るように示されました。それは、報道関係者が真実を報道し、さらにはイエシュア(イエス)の信仰について証をするように変えられることです。リック・ウォレン師(注)が主の祈りをイエシュア、イエスの御名によって行った時、世俗的なメディアは世界中にそれを報道しました。

注:2009年1月20日のオバマ大統領就任式の日、大統領の宣誓の直前にカルフォルニア州サドルバック教会のリック・ウォレン師が祈りを捧げた時、「イエスの御名によって」の部分で「イエシュア、イサー、ヘズス、ジーザスの御名によって」と、イエスの御名をヘブライ語、アラビア語、スペイン語、英語で祈りを締め括った。リック・ウォレン師は、アメリカでも最大級の教会の牧師で、「人生を導く5つの目的」などの著書がある。

神のすべての政治を超えた第一のご関心は、失われた大勢の人々に対して救いのメッセージを伝えることです。もし私たちが祈るならば、神はオバマの任期を空前の世界宣教のためにお使いになることができます。彼は黒人であるため、アフリカにいる大勢の人々は彼をキリスト教徒でアフリカ系の経歴を持つ人物として見ます。彼の父がイスラム教徒(注)であったため、大勢のイスラム教徒は彼を「元」イスラム教徒でクリスチャンとなった人物として見ます。彼はインドネシアに在住していたことがあるため、大勢のアジア人は彼をアジア系の経歴を持つクリスチャンとして見ます。彼は「革新的で世俗的なヒューマニスト」基本方針を信奉しているため、ヨーロッパにいる大勢の無神論者は彼を自分たちの「英雄」として、しかし同時に彼をクリスチャンとして見ます。

注:オバマ氏の実父はケニア人で、イスラム教徒。オバマ氏が2歳の時両親が離婚し、母親はインドネシア人実業家と再婚した。

今ヨーロッパ、アジア、アフリカ、そしてイスラム世界全体での大収穫の時期を迎えています。教会が大宣教命令を実行する時に来ています。すべてのクリスチャンが「世界」のクリスチャンとなる時が来ています。

## エルサレムの祈禱集会

1月20日、大統領就任式が行われている同時刻に、エルサレムの様々なCongregationから信者たちが祈禱会のために集まりました。集会は親愛なる私の兄弟オデド・シヨシャニ師が導きました。祈りと賛美はオデド、アシェル、シェリー・マイヤーズ師、ルーヴェン・バーガー師、そしてユヴァル・ヤナイ師が導きました。集会はヘブライ語に英語の通訳付きで行われました。そこでは素晴らしい執り成しと一致の霊がありました。

私たちはパレスチナ人、とりわけパレスチナ人クリスチャンを祝福しました。私たちはオバマ氏のために第一テモテ2章に基づいて導かれるように祈りました。イスラエルの安全と、もうすぐ行われるイスラエル総選挙のために祈りました。雨(イスラエルは水不足で干ばつに悩まされている)のために祈りました。世界宣教のために祈りました。

## イスラエルの牧師たちの集会

この木曜日と金曜日(1月29日と30日)、イスラエルのメシアニック・ジュー同盟(メシアニック・ジューイッシュ・アライアンス・オブ・イスラエル)は全国イスラエル牧師および長老総会を協賛しました。最近イスラエルのメシアニック共同体でユダヤ文化やラビの教えの位置付けについて、イスラエルでは多くの議論が交わされています。

ある意見は賛成側と反対側両方によって熱い討論が行われています。イスラエルのメシアニック共同体内でのユダヤ文化についての討論は、使徒行伝15章で生じた討論とは裏返しの図です。当時は異邦人信者に対し、自分の文化の中で信仰を表現する自由が与えられることによって、救いの福音メッセージの広がりを阻害しないようにしたのです。その後、今でもこの問題は熱く討論されています。どうやら完全に一回転して元に戻ったようです。

ラビ的教え「反対」派は自身のことを「イスラエル人」と称し、一方ラビ的教え「賛成」派は「ジュダイズム(ユダヤ的、ユダヤ主義)」という言葉を使う傾向にあります。**エゼキエル 37:15-28**には、終わりの時に、メシアはイスラエルとユダの二つの集団(二本の杖)を一つにすると預言しています。どうかそれが今週、主の憐れみによって始まりますように！アシェルは基調スピーカーの1人としてスケジュールに組み込まれています。どうか主の御体の一致と、バランスの取れた教え、そして正しい教義のために私たちと共に祈り下さい。

---

## ガザでの停戦

(今週再びリバイブ・イスラエルおよびアハヴァット・イエシュアのチームにおいて、賜物のミニストリーを行う牧師であるエディー・サントロ師の記事から引用します。)

しばらくの間銃声は止んでいます。遠くから鳴り響く爆発音は止んでいます。イスラエル南部の街に住む人々は普段の生活に戻っています。学校は再開されています。混雑した託児所から子どもたちの遊ぶ声が再び聞こえています。

これらの苦痛と困難な日々の間、何を実際に達成したのかを評価するには時間がかかるでしょうが、いくつかははっきりしています。

- ハマスは深刻な打撃を受け、イスラエルを攻撃する能力は著しく後退しました。
- 大規模な密輸トンネル網は大打撃を受けましたが完全には破壊されていません。今も、攻撃が止んだほんの数日後に、イスラエルのニュースでトンネルは継続して使われている様子の写真が公開されていました。
- イスラエル軍が敵に対して甚大な被害を与える能力があることをアラブ世界に示されました。私たちの敵集団に対する抑止効果は非常に重要です。
- 今回の戦闘を引き起こしたイスラエル南部の街々に対するロケット攻撃は止まりました。

## 国際社会

イスラエルが防衛する時いつも伴うことですが、長期にわたる有害な「戦争犯罪人」の捜査がイスラエルだけに焦点を置いて行われるでしょう。イスラエル政府はイスラエルとその防衛権を非合法化しようとするこの国際的な試みに対抗するため、すでに特殊部門を設けました。

もう一つの今回の戦闘で有害な結果となる可能性として、ハマスの真の正体はその中心となる教義はイスラエルの破壊とするテロ集団と認識するのではなく、合法的な政党として認めることです。パレスチナ人の苦しみについて私たちは同情する一方で、国際社会が資金援助および再建の支援を試みる際、ハマスと直接交渉をし始めるという傾向が見られるかもしれません。ある国が、ハマスが普通の統治権を有すると語るたびに、ハマスが国際的な合法性を獲得するという目標に対する長い念願の実現が近くなるのです。